

COOメッセージ

03

Embracing Agility:
Our Path Forward in FY 2024



ユーザー訪問記 210

05

発電所を支える、
信頼のポンプ逆転水車

山梨県企業局 発電総合制御所
管理施設 塩川第二発電所



11 ニュースの窓

アメリカ「Gastech 2024」で
液化アンモニア・水素用ポンプを
アピール



12

熊本県農産物フェア

Project Highlights

07



マンホールふた完成

13



15 弾丸ツアー in インド



失敗を尊ぶ

失敗に学ぶ

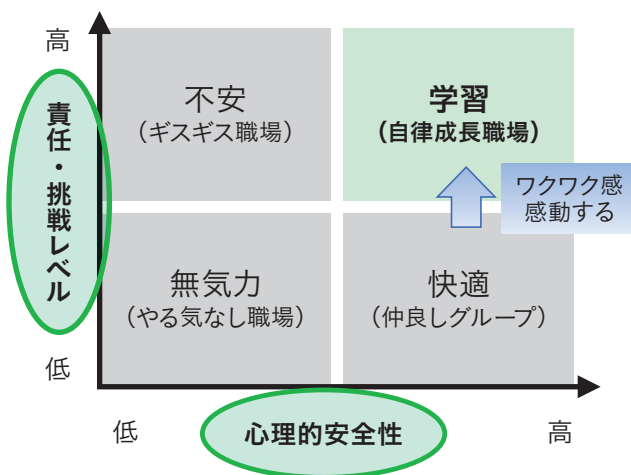
CEO 原田耕太郎

CEO MESSAGE

////////////////////



トリシマは、日々学び助け合いながら高い目標に向かっていくことで、人も組織も活き活きと成長するという学習ゾーン（自律成長職場）に、一人でも多くの人がレベルアップすることをめざして事業を進めています。その際に下記の図の横軸、自分の考えや気持ちを誰に対してでも安心して発言でき、発言や指摘によって人間関係の悪化を招くことがないという安心感が共有されている度合いである「心理的安全性」が重要となります。



(日経BP/岩出雅之著「逆境を楽しむ力」23ページの図を参考に作成)

今年9月、58年前に逮捕され無罪を訴え続けた袴田巖さんの無罪が確定しました。捜査機関による証拠捏造であるという最終判決に、そして解決に58年というあまりにも長い歳月が費やされたことに、強く衝撃を受けました。『何か間違っている』とたくさんの捜査関係者が感じていたに違いないのに、できるだけ早く世の中の不安を払拭しなければならないという大きなプレッシャーで、組織における心理的安全性が失われていったのではないのでしょうか。真実を明らかにすることより、司法組織を守ることが目的となり、過ちが修正されず

に突っ走ってしまった事例と思われる。この出来事から私たちはたくさんの事を学ぶことができます。

ポンプ事業を通して世界に貢献するための技術やサービスの開発、そのために必要な時間を創出する業務プロセスの刷新。ハードルの高い挑戦であり、失敗やミスは避けられません。その時に大切となるのが、困難な状況でも前向きさ・ポジティブさを持続できるか、ミスやうまく行かないことを恥ずかしいこととせず、組織の学びとしてみんなで共有することができるか。そう、心理的安全性の高さがキーとなるのです。高い目標にチャレンジするのですから、失敗は当たり前。失敗は恥ずかしいことではなく、みんなが学ぶチャンスであると捉え、失敗を尊ぶ組織になっているか。『袴田事件』を通して、肝に銘じたいと強く思います。

異常に暑く長い夏が終わりました。今年も統計開始以来で最も気温が高い年になるのは確実です。世界中で異常気象が続き、今までにない豪雨、渇水によって人々の生活が脅かされ続けています。豪雨や渇水の被害を最小限にするために、省エネを推進しCO2排出量を削減するために、そしてアンモニアや水素など次世代のエネルギーを早期に普及させるために、トリシマがやるべき仕事は世界に広がっています。レベルの高い業務がどんどん増えるなかで、本当に私たちがやるべきことに集中する仕事のやり方に、いかに変革できるか。私たちが世の中に貢献するために課せられた高いハードルです。高いからこそ、みんなが臆することなく、失敗を尊び、失敗に学んで挑戦する組織をめざすことができるのです。

Embracing Agility: Our Path Forward in FY 2024

Alister Flett Director, COO



Dear Team Torishima,

As we move into the second half of 2024, I'm reminded of the remarkable journey we've shared since I joined Torishima in 2003. What continues to set us apart is our unique ability to blend global expertise with Japanese engineering excellence, creating something truly special in the pump industry.

Before looking ahead, I want to express my sincere gratitude to each of you for your exceptional dedication during the first half of 2024. Your commitment has driven remarkable achievements — from successful deliveries of major projects in Algeria and Egypt to groundbreaking developments in hydrogen pump technology. Your hard work has positioned us perfectly for the challenges and opportunities that lie ahead.

Our commitment to becoming "No.1 in the Markets we participate in" remains unwavering. While we've achieved significant milestones in the first half of 2024 — from groundbreaking developments in hydrogen pump technology to expanding our presence in seawater desalination—today, I want to focus on how we're transforming the way we work to meet tomorrow's challenges.

The Agile Revolution at Torishima

We've recently introduced Agile methodology across our organization, and the results have been inspiring. Our pilot programs have already trained 53 team members, with more joining every month. But what does being "Agile" really mean for Torishima?

At its core, **Agile is about building small and growing big — just like our own success story.** It's about breaking down complex challenges into manageable pieces and continuously delivering value to our customers. We're applying this philosophy through our 5 C's framework:

Customer	Keeping our clients at the heart of every decision
Commitment	Delivering on our promises, no exceptions
Cooperation	Working seamlessly across departments and borders
Challenge	Embracing new ways of thinking and working
Change	Adapting swiftly to market demands

Key Focus for Second Half of FY 2024

As we look ahead, I want each of you to consider how you can contribute to our shared success through these essential focus areas:

Quality Excellence (QX)

- Remember that customers see Torishima as one entity
- Every action you take shapes customers experience
- Focus on execution, not excuses

Digital Transformation (DX)

- Embrace our new cloud-based systems
- Contribute to our expanding live reporting capabilities
- Support the rollout of our global learning management system

Human Capital (HX)

- Share your knowledge with at least one colleague
- Participate in our expanded Agile training programs
- Embrace mentorship opportunities

Innovation (IX)

- Contribute ideas for energy efficiency
- Think beyond your immediate role
- Stay curious about new technologies

As your COO, I'm excited about the transformation I see happening across our organization. Our Agile journey is just beginning, but it's already changing how we think, work, and deliver value to our customers. Whether you're in engineering, production, sales, or support functions, you play a crucial role in our success.

The question I pose to each of you is simple: "How can you contribute to our goals in the next 6 months?"

Let's continue challenging ourselves while maintaining what makes us unique—our unwavering commitment to excellence and innovation. Together, we're building the future of Torishima. Looking forward to our shared success in the months ahead.



アジャイル思考で未来を切り拓く：2024年度、私たちの進む道

取締役共同COO Alister Flett

トリシマに入社して以来これまで、皆さんと歩んできた素晴らしい道の実感しています。トリシマが際立っているのは、グローバルな専門知識と日本の優れたエンジニアリングを融合させ、ポンプ業界で他に類を見ない製品・サービスを生み出すという独自の能力です。

まずは2024年度前半の皆さんの並々な努力に感謝の意を表したいと思います。一人ひとりの献身的な努力により、アルジェリアやエジプトにおける大型プロジェクトの成功から、水素ポンプ技術における画期的な開発まで、目覚ましい成果を上げることができました。皆さんの努力により、私たちは今後の「Challenge & Opportunity (チャレンジとチャンス)」に万全の体制で臨むことができます。

「参入する市場でNo.1になる」というコミットメントは確固たるものです。2024年度前半には、水素ポンプの開発から海水淡水化マーケットにおける存在感の拡大に至るまで、布石を打つことができましたが、ここでは、今後の課題に対応するためにトリシマが業務のやり方をどのように変えているかに焦点を当てたいと思います。

トリシマにおけるアジャイル革命

私たちは最近、アジャイル手法を組織全体に導入し、素晴らしい成果を上げています。パイロットプログラムではすでに53名の社員が研修を受け、毎月多くの社員が参加しています。しかし、アジャイルがトリシマにとって本当に意味することは何なのでしょう？

アジャイルの本質は、**小さく始めて大きく育てることで、それはトリシマのサクセスストーリーそのものです。**複雑な課題を管理可能な部分に分割し、お客様に継続的に価値を提供することです。トリシマは、この哲学を5つのCの枠組みを通じて実践しています。

Customer (顧客)	すべての意思決定においてお客様を最優先する
Commitment (コミットメント)	約束を守る、例外はなし
Cooperation (協力)	部門や国境を越えてシームレスに連携する
Challenge (挑戦)	新しい考え方や働き方を積極的に取り入れる
Change (変化)	市場の需要に迅速に対応する

2024年度下期の重点項目

将来を見据え、以下の重点分野を通じて、皆さんがトリシマの成功にどのように貢献できるでしょうか。

品質の卓越性 (QX)

- お客様はトリシマを一つの企業として見ている
- 皆さんの行動が、顧客体験(顧客満足度)に影響する
- 言い訳ではなく、実行に集中する

デジタル変革 (DX)

- 新しいクラウドベースのシステムを活用する
- ライブレポート機能を拡張する
- グローバルな学習管理システムの展開をサポートする

人的資本 (HX)

- 少なくとも1人の同僚と知識を共有する
- 拡張されたアジャイルトレーニングプログラムに参加する
- メンターシップの機会を活用する

イノベーション (IX)

- エネルギー効率化のためのアイデアを提案する
- 自分の役割にとらわれず考える
- 新しいテクノロジーに興味を持ち続ける

私はCOOとして、トリシマの組織全体で起こっている変革にワクワクしています。トリシマのアジャイルへの取り組みは始まったばかりですが、すでに私たちの考え方、働き方、そしてお客様への価値の提供の仕方を変えつつあります。エンジニアリング、製造、営業、サポートなど、どの部門に所属していても、トリシマの成功には皆さんの重要な役割が欠かせません。

皆さんに問いかけたいことはシンプルです。「2024年度下半期、トリシマの目標にどのように貢献できますか？」

トリシマの独自性を維持しながら、挑戦を続けていきましょう。トリシマの独自性とは、卓越性と革新性に対する確固たるコミットメントです。一緒に、私たちの未来を築いていきましょう。近い将来、皆さんと成功を分かち合えることを楽しみにしています。

発電所を支える、 信頼のポンプ逆転水車

山梨県企業局 発電総合制御所 管理施設 塩川第二発電所

塩川第二発電所建設の経緯

塩川第二発電所は、山梨県の北西部に位置する北杜市の山間部にある小水力発電所です。山梨県では、県内の恵まれた自然環境を活かしてクリーンエネルギーの普及促進に取り組むことで地球温暖化の対策とする「やまなしグリーンニューディール計画」を2009年に策定しました。その一環として、県による「山梨県初の小水力発電モデル施設」となる塩川第二発電所が2010年に建設されました。運転開始から14年が経過した現在も、山梨県の小水力発電を象徴する重要な施設として運営されています。



山梨県発電総合制御所

北杜市の魅力

北杜市は富士山の絶景スポットが数多くあるほか、日本百名山5座、山梨百名山16座を擁し、南アルプス、奥秩父、

八ヶ岳といった大自然に囲まれ、都会では感じられない自然の雄大さを体感できます。また、スーパーやコンビニエンスストアで目にするミネラルウォーター「南アルプスの天然水」の産地であり、ミネラルが豊富で美味しい名水を利用した産業の拠点でもあります。ほかにも、北杜市の白州温泉は、日々の疲れを癒すスポットとして多くの方に愛され、地元のみならず全国から観光客が訪れます。筆者もよく白州温泉を利用しており、山梨県出張での楽しみの1つになっています。

信頼のポンプ逆転水車

塩川第二発電所では、トリシマが長年のポンプ製造で培った技術から開発した「ポンプ逆転水車」が活躍しています。「ポンプ逆転水車」とは、ポンプを使用した小水力発電で、地形の高低差などから生じる水流をポンプに流し、「逆転」するポンプで発電機を回転させて電気を発生させます。

塩川第二発電所は、水道施設を利用した小水力発電施設のため、徹底した水質管理が求められますが、トリシマのポンプ逆転水車は、水道用ポンプとして多数の実績があり、水車内部の部品には潤滑油などが使用されていない、水質に対して安心安全を配慮した製品となっています。取材にご協力いただいた発電総合制御所管理施設の副主幹である川崎様からは「トリシマ製のポンプ逆転水車は、



最大出力	82 kW
発電形式	水路式
水車型式	逆流ポンプ
最大使用水量	0.20 m³/s
有効落差	63.6 m



ベテラン技術者は、聴診器を使用し微妙な音の違いで軸受の潤滑状態を判断するため、長年の経験が必要

不具合や故障がないので非常に信頼している」というお言葉をいただきました。

比較的一定の水流を維持している水道施設を利用した小水力発電は、太陽光発電や風力発電などほかの再生可能エネルギーと比べて安定した発電量が確保され、天候や季節に左右されないという利点があります。また、水力発電は温室効果ガス（CO₂）の排出が極めて少なく、環境負荷を軽減し、気候変動対策にも貢献することから、水資源が豊富な日本を中心に、世界各国でも注目されています。

IT・AI化の推進

川崎様は、小水力発電所の維持管理やクリーンエネルギー事業の啓発活動に従事されており、今回の取材では「維持管理の分野でも少子化が問題になっているため、維持管理のIT化、AI化を推進していきたい」という強い思いをお話いただきました。近年、歯止めがかからない少子化で維持管理技術者の高齢化が進み、次世代の技術者不足が急速に進行しています。インフラ施設を訪問すると「若手の維持管理技術者を育成したいが、就職希望者もなかなか集まらない」という切実な声を耳にすることが

多く、事態の深刻さを実感しています。このような状況から、これまでベテラン技術者の感覚や経験に基づいた判断を、ITやAIなど最新技術を採用したデータ分析でより客観的かつ効果的な判断に変えることが、今後の将来を見据えた重要課題となっています。課題に対する川崎様の熱い思いに感銘を受けると同時に、トリシマとしてもTR-COM（回転機械モニタリングシステム）などのIT・AIを活用した製品を通じて、施設の維持管理に貢献していくことが使命であると再認識しました。

最後になりましたが、日々の業務で大変お忙しいなか、取材にご協力いただきました川崎様には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。（取材／東京支社 谷田 航）



左：取材にご協力いただいた川崎副主幹 右：筆者

Project Highlights

01 農業用水の安定供給で農業生産性を向上

北海道開発局 網走開発建設部から
網走川中央地区 美幌揚水機場機械設備新設工事を受注

美幌揚水機場がある網走郡美幌町は、北海道東部に位置し、小麦、豆類、ばれいしょ（ジャガイモ）、てんさい（砂糖の原料）、たまねぎなど野菜類の畑作が行われています。しかし、本地域の畑作は降雨に依存しており、少ない降水量と保水性の乏しい土壌条件が重なり、農業生産性が不安定な状況にあります。

そこで、美幌町と隣接する大空町の2,289haにおよぶ農業地帯において、農業用水の安定供給、農業生産性の向上および農業経営の安定を図るため、「国営かんがい排水事業 網走川中央地区」が2017年に着手し、本工事もその一環で行われることになりました。新しい揚水機場の建設と既存の水利権を再編することで、畑地かんがい（スプリンクラーなどで散水すること）を行うための安定した用水が供給されます。

本工事は、トリシマが受注して2023年3月に完成した美幌揚水機場新設工事の第二弾であり、今回「野崎・豊幌幹線系」に供給する送水ポンプ3台、保圧ポンプ2台、受電・制御設備

の製作・据付を行います。発注にあたっては、総合評価入札方式が採用され、「機器据付時の安全対策」を考慮したトリシマの提案が高く評価され、受注に至りました。

現在は2025年8月の完成に向けて、機器の設計・製作が進められており、本工事の完成による農業用水の安定供給を通じた農業生産性の向上が期待されています。

ポンプ名称	送水ポンプ	保圧ポンプ
口径・形式	MMK200/3	MMK-E100/3
台数	3台	2台
原動機容量	220 kW	75 kW

02 千歳川における防災強化事業の関連工事を受注

北海道開発局 札幌開発建設部から
王子揚水機場機械設備製作据付工事を受注

本工事は、千歳川の河川計画に基づく「河川附帯工事」の一環として行われ、江別市街地における堤防整備に支障をきたす既設の王子揚水機場を改築するものです。

千歳川は支笏湖^{しこっこ}を源とした、幹川流路延長が108kmにおよぶ石狩川の一次支川で、全国でも有数のサケ遡上河川です。支笏湖を流れ出た千歳川は、千歳市街地を経て広大な農地を流れ、江別市街地で石狩川に合流します。その流域には江別市や千歳市など4市2町が含まれ、約37万人もの人々が生活しています。これらの地域では、主に水田や畑作などの一次産業に加え、ビールや乳製品といった食品製造業などの二

次産業が盛んです。さらに、最近では新千歳空港を中心とする臨空型工業団地の拡大や半導体産業の進出があり、急速に発展しています。

千歳川は、中流下部に広大な低平地が広がり、洪水時には本川である石狩川の水位に長時間の影響を受けやすい特徴があります。そのため、内水氾濫が発生しやすく、1981年8月には戦後最高水位を記録し、未曾有の大洪水が発生しました。こうした歴史を背景として現在、計画高水位以下で安全に河川の水を流下させることを目的とした堤防整備が進められており、河川工事によって改築が必要となった「王子排水樋門」

「王子用水樋門」および「王子揚水機場」（管理者：王子エフテックス（株）江別工場）の改築工事が発注されました。

本工事の入札においては総合評価方式が採用され、「据付時における品質確保」や「狭隘箇所での据付作業における安全対策」などを考慮した提案が高い評価を受け、受注に至りました。

現在、2026年9月の竣工をめざし、ポンプや電気設備などの設計製作、工事施工計画の立案が全力で進められています。

ポンプ名称	No.1～3河水ポンプ	
口径・形式	CDM500×450	CDM600×500
台数	合計3台	
原動機容量	120 kW	170 kW

03 スーパーエコポンプへの更新で消費電力とCO₂排出量削減に貢献

住友理工株式会社小牧製作所向けに3台を受注

住友理工株式会社では、2029年の創立100周年に向けた経営ビジョンとして「2029年 住友理工グループVision (2029V)」を策定され、CO₂排出量の削減目標では2018年度比Scope 1+2で-30%、Scop3では-15%の実現に向けた取り組みを推進されています。

同社は以前にトリシマが開催する「ポンプde省エネ講習会」に参加いただきました。その際、同社小牧製作所では冷却塔の冷却水循環用として多くのポンプを使用されている情報を伺いました。以降、省エネ提案を重ね、既設ポンプ（他社製ポンプ）3台をトリシマ製ポンプへ更新いただくことになりました。本ポンプは従来のエコポンプと比べてさらなる効率アップを図り、欧州最高グレードのMEI \geq 0.70を達成したスーパーエコポンプです。更新したポンプ3台のうちテクニカルセンターのポンプ2台においては、既設3台（11 kW_2台、18.5 kW_1台）を見直して15 kW_2台にしました。結果、消費電力をおよ

そ26%削減し、CO₂排出量の削減は年間33.4t-CO₂を見込んでいます。

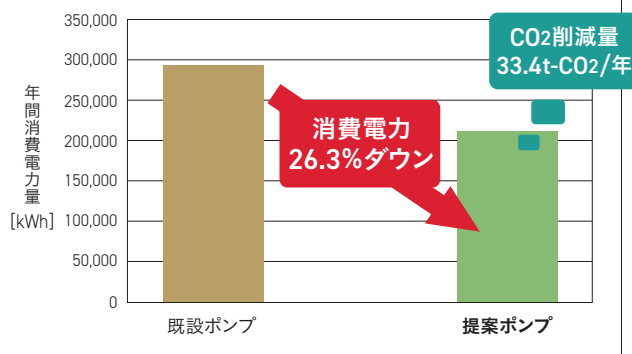
ポンプの更新にあたっては、実際に既設のポンプと更新後のポンプの電力・流量測定を実施することで、仕様点ベースではなく実際の運転点に基づいた更新ができました。また、更新後の省エネ報告会ではトリシマの省エネ提案活動について高い評価をいただきました。

今後もポンプの省エネ提案活動の継続によって、消費電力とCO₂排出量の削減というお客様のニーズに貢献していきます。

ポンプ名称	冷却水ポンプ (防振東工場)	冷却水ポンプ (テクニカルセンター)
口径・形式	CAL80-240E	CAL100-245E
台数	1台	2台
原動機容量	11 kW	15 kW



既設ポンプとの消費電力およびCO₂排出量削減の比較
(テクニカルセンター向け2台)



このエリアの記事については、冊子のみの掲載としており、
blankとさせていただきます。ご了承願います。

05

シェールガス採掘プロジェクトの 海水淡水化プラント向けポンプを受注

Tecton Oil & Gas Equipment Trading LLCから
サウジアラビアの海水淡水化プラント向け海水高圧ポンプなど16台を受注

サウジアラビア北東部のJafurah地区で進められているシェールガス採掘プロジェクトの一環として建設される海水淡水化プラント向けに、Tecton Oil & Gas Equipment Trading LLC (Tectonグループ) から、SWRO高圧ポンプおよびエネルギー回収装置 (ERD) 用ブースターポンプ計16台を受注しました。

この海水淡水化プラントの造水能力は1日あたり80,000m³で、近年の主要方式である逆浸透膜法 (RO : Reverse Osmosis) が採用されています。生産された水は、掘削、地盤形成水圧破碎、油田の火災予防、暖房設備および発電プラントでの使用が見込まれています。

本プラントのオーナーは、サウジアラビアの国有石油会社

であるSaudi Arabian Oil Company (Aramco社) です。建設および20年間の保全・水の販売契約は、コンソーシアムであるFuture Technologies for Water Desalination Companyが締結しています。長期間にわたる保全に対応するため、プラントで使用されるポンプには高い効率性と信頼性が求められています。

Tectonグループからは、2022年にTanajibプロジェクト向けのRO海水淡水化用ポンプを受注しており、今回の海水淡水化案件はトリシマにとって同グループからの4件目の受注となります。また、Tectonグループは海水淡水化案件以外にも中東 (特にGCC諸国) で幅広くプロジェクトを手掛けており、トリシマは2023年にUAEのTransco向け送水プラント用

メインポンプを受注するなど、近年多くの注文をいただいています。これらは、トリシマが15年以上にわたり築いてきた同グループとの信頼関係の成果です。

本プラントは2025年の完成に向けて現在建設が進行中です。トリシマは、プラントの心臓部であるポンプに求められる高い効率性、信頼性、短納期というニーズに応えるだけでな

く、今後も最適な製品とサービスを提供し、さらなる信頼関係を築いていきます。

ポンプ名称	SWRO High Pressure Pumps	ERD Booster Pumps
口径・形式	MHA150/4	CBR250-380
台数	8台	8台
原動機容量	1,900 kW	280 kW

06 サウジアラビアの 送水プラント向け主要ポンプを一括受注

Mapa Insaat ve Ticaret Anonim Sirketiから サウジアラビアの送水プラント(3プロジェクト)向けに主要ポンプ合計59台を受注

注文主であるMapa Insaat ve Ticaret Anonim Sirketi (Mapa社)は、トルコに本社を置く多国籍企業であり、建設事業やエネルギー事業のほか、航空業、観光業、金融業など、中東を中心に幅広く事業展開を行っています。また、今回の送水プラントのエンドユーザーは、中東で多くの実績を誇るSaudi Water Authority (SWA、IDSWCC)のグループ会社であるWater Transmission and Technologies Company (WTTCO)およびSaudi Water Partnership Company (SWPC)です。

今回のRAKプロジェクト、RCSRプロジェクト、Jurannah ISWRプロジェクトの3つのプロジェクトのうち、RAKプロジェクトとRCSRプロジェクトは、サウジアラビアにおける「ビジョン2030」計画の一環として、持続可能なインフラ整備と資源の最適利用を目的とした重要案件です。RAKプロジェクトは、Ras Al Khairにある海水淡水化プラントで造られた水をRiyadhまで運ぶ送水プロジェクトであり、トリシマは他

のプロジェクトと同様に、海水淡水化プラントと都市間を結ぶ送水プロジェクト向けに多くのポンプを納入しています。RCSRプロジェクトは、急速に成長しているRiyadhの人口増加に対応するため、飲料水供給の効率化と安定化を図ることを目的としています。

一方、Jurannah ISWRプロジェクトは、200万m³の貯水池と50万m³の運用貯水池、3.5kmのパイプライン、ポンプステーションを建設するプロジェクトで、宗教行事の期間中に急増する水需要のピークに対応するため、重要な役割を果たします。

これらの重要案件を同時に受注できたのは、トリシマがこれまで培ってきた長年の納入実績に加え、サウジアラビア国内におけるサービス体制の強化が実を結んだ結果です。今後もポンプの提供に留まらず、アフターサービスを含めた総合的なサポートを通じて、お客様との信頼関係をさらに強固なものにしていきます。

Ras Al Khair - Riyadh Water Transmission System (RAK Project) エンドユーザー：SWA - WTTCO

ポンプ名称	PS1 Booster Pumps	PS1 Main Pumps	PS2 Main Pumps	PS3 Main Pumps
口径・形式	CDM800×700	CDM700×600	CDM700×600	CDM700×600
台数	10台	10台	10台	10台
原動機容量	1,800 kW	9,100 kW	9,100 kW	7,750 kW

Riyadh City Southern Ring Water Transmission System (RCSR Project) エンドユーザー：SWA - WTTCO

ポンプ名称	TGSE Station to TGWQ - Main Pumps	TGSE Station to TGSW & Uridah - Main Pumps	Qiddiya PS - Main Pumps
口径・形式	CDM700×600	CDM600×500	CDM600
台数	5台	4台	5台
原動機容量	6,600 kW	2,100 kW	315 kW

Jurannah ISWR Project エンドユーザー：SWA - SWPC

ポンプ名称	Main Pumps
口径・形式	CDM700LA2
台数	5台
原動機容量	970 kW

大阪府より「東部流域下水道事務所長 表彰」を受賞

トリシマが2020年10月から2023年5月にかけて実施した小阪ポンプ場（大阪府東大阪市）ポンプ設備の更新工事において、大阪府都市整備部が表彰する「大阪府東部流域下水道事務所長 表彰」を受賞しました。これは、大阪府都市整備部が発注する建設工事等で、特に優れた工事（業務）を表彰するものです。この受賞は、本工事の担当である担当技術者の松井 隆峰氏、監理技術者（現場代理人兼任）の荒松 拓也氏の精励によるものです。



優良従業員表彰



大阪商工会議所から

2024年度優良商工従業員表彰において、大庭 弘靖氏（東京産業技術部）が晴れの表彰を受けました。この表彰は、卓越した業務上の知識、技術をもち、

また豊かな経験から創意、工夫、改善により業務の向上に貢献した方、さらに後進の指導力に富み、業績向上に貢献した方が対象となるものです。



大阪府工業協会から

2024年度永年勤続優良従業員表彰において、溝上 智之氏（海外生産チーム）が晴れの表彰を受けました。この表彰は、勤務成績が良好であり、業務上の知識および技術に優れ、他の社員から尊敬され模

範となる方、また、業務上の創意、工夫、考案、研究などにより製品開発、品質改善、技術向上などに寄与された方、さらに後進の指導、社業の推進に尽力するなど企業の業績向上と発展に寄与し、貢献された方に対して贈られるものです。



高槻商工会議所から

2024年度優良従業員表彰において、山鬼 等氏（ポンプ製造部）が晴れの表彰を受けました。この表彰は高槻市内の事業所に永年にわたり勤続し、旺盛

な勤労意欲で能率の向上に努め、会社の業績向上と発展に貢献した方に贈られるものです。

アメリカの展示会「Gastech 2024」に出展

9月17日から20日まで、アメリカのヒューストンで開催された展示会「Gastech 2024」に出展しました。脱炭素社会の実現に向けた、天然ガス、LNG、水素、気候技術、AI、エネルギー製造、低炭素ソリューションといった分野の世界最大級の展示会で、出展社数は800社以上に及びます。

トリシマのブースにおいては、液化アンモニア用ポンプ（ドイツHERMETIC社のポンプのカットモデル）と今回、初お披露目となる液化水素用ポンプのカットモデルを展示。TSSMI (Torishima Service Solutions of Michigan LLC.) やTSSE (Torishima Service Solutions Europe Ltd.) など、アメリカやイギリスのトリシマ社員も説明員として参加しており、来場者に私たちの最新技術や製品をアピールしました。



熊本県農産物フェア — 本社食堂で熊本県産の食材の提供・くまもと物産展を開催



昨年に引き続き今年も、熊本県産の農産物の消費拡大を応援する目的で、熊本県農産物フェアを開催しました。このイベントは、熊本県の農地整備においてトリシマ製ポンプが多数稼働し、貢献していることを社員が改めて知るきっかけにもなっています。



まず、11月11日から15日にかけては本社工場の食堂で、熊本県産の食材を使った社食を提供しました。熊本県のお米「森のくまさん」、味彩牛や豚

肉、鯛にブリ、長ナス、ミニトマト、さつまいもといった食材を使ったバラエティー豊かなメニューを美味しくいただくことができました。

次に、11月16日には本社工場ビルにて、くまもと物産展を開催し、社員とその家族、知人ら300人ほどが参加しました。昨年好評だったジビエ販売に加え、今年は新たな取組みとして熊本県産の野菜の販売も行われ、物産展の販売と合わせ、それぞれ買い物を楽しんでいただけました。また、トリシマのマスコットキャラクター「トリポン」はもちろん、熊本県の営業部長兼しあわせ部長の「くまモン」も登場し、くまモンによる熊本県のPRとダンスが披露され、大盛況となりました。



©2010熊本県くまモン 協力：熊本県大阪事務所

夏季インターンシップを実施

8月19日から30日までと9月9日から13日までの期間で夏季インターンシップを行いました。学校の制度変更などを踏まえ、従来の10日間コースに加え今年度は5日間コースを新設しました。大学・高専の15校から要請を受け、全国各地から計19名の学生が参加。ポンプの基礎や流体解析、TR-COM、水素・アンモニアポンプ、エコポンプの営業について学び、工場実習やトレーニングセンターでの実機を用いたポンプの分解・組立てを行いました。



ポンプ場見学



ポンプの分解・組立て実習



ポンプの芯出し実習

また、高槻市の排水機場2ヶ所を訪問し、災害対策の最前線を見学しました。参加した学生は、普段の生活ではなかなか見ることがないポンプについて理解を深める良い機会となりました。

物故者合記法要 — 霊地高野山・会社墓所にて —



1967年に和歌山県高野山、奥之院に建立された会社墓所での合記法要が、10月5日に執り行われました。当日は原田CEOをはじめご遺族の方々や取締役、執行役員など33名が参列しました。トリシマの菩提寺である大明王院本堂で物故者の追善法要が厳かに執り行われた後、会社墓所にて今回お祀

りした15霊位の法要が津田哲哉ご住職によるご読経が流れるなか、故人のご冥福をお祈りすると共に会社発展のご加護を祈願しました。

この法要は、1969年の創業50周年記念日に高野山会社墓所の合祀開眼法要と第1回合記者17霊位の法要が執り行われて以来、5年毎に実施されています。その間の年は原田CEOと総務部門関係者で参詣し、今回の合祀を含め126霊位をお祀りしています。

墓標には原田龍平元会長の言葉「株式会社西島製作所に一生を捧げ帰幽せる我等の同士よ 永えに清く安らかに眠り給え 我等は西島を護り 人類に貢献せん 冀わくはご加護を垂れ給はわんことを」が刻まれています。

墓所は高野山奥之院入り口の一の橋から奥(左)の本堂を150mほど行った参道右側に面した場所にあります。高野山に行かれた時はぜひお詣りください。

トリシマのマンホールふたが完成

トリシマの本社工場がある高槻市では、下水道事業の新たな財源確保の一環として、マンホールのふたに有料で宣伝広告などを掲載し、その広告収入を下水道施設の維持管理費用などに充当する取り組みが実施されています。本事業は北摂地域で初めての試みであり、今回、トリシマは掲載事業者の一つとして選定いただきました。トリシマは、マスコットキャラクター「トリポン」をあしらったマンホールのふたを製作し、10月29日にJR高槻駅前のアクアモールで開催されたお披露目会にて披露され、実際に設置されました。

トリシマのマンホールふたは、JR高槻駅北側の駅前広場周辺に設置されています。

ぜひお探しくささい。

トリシマのマスコットキャラクター「トリポン」が街の隅々に水を届けることで人々が笑顔になることを描いたマンホールふた



2024年 たかつき産業フェスタに出展



11月9日、高槻市の安満遺跡公園にて、「たかつき産業フェスタ」が開催されました。本フェスタは、高槻市内の事業者がもつ製品や技術、魅力などを多様な展示や体験を通して幅広い世代の方々に知っていただくことを目的に開催されるイベントで、トリシマは毎回出展しています。当日は天候にも恵まれ、会場には1日を通して12,000人ももの来場者があり賑わいを見せていました。

トリシマのブースでは「エコポンプの手回し模型」を展示、実際にポンプを回す体験に長蛇の列がで盛大でした。また、トリポンの風船やスポンジの配布も大好評で、認知度向上を図ることができました。その他にもキャラクター大集合ではトリポンが出演し、たくさんのお子様たちに囲まれるなど地域の人たちとふれあうことができました。

トリシマ初の本格的なグローバルリーダー研修 Making A Difference



2023年10月～2024年10月 in UK, UAE, Turkey, Japan



2023年10月に始まったトリシマ初の本格的なグローバルリーダー研修「Making A Difference」(以下、MAD研修)が、この10月に無事終了しました。MAD研修は、外部からプロの英国人講師を招き、トリシマのニーズに合わせてカスタマイズされたリーダーシップ開発プログラムで、未来を担う次世代リーダーを育成することを目的としています。

参加メンバーは、本社を含む世界6拠点から集まった15名。研修は第1回が英国グラスゴー、第2回がUAEドバイ、第3回がトルコのイスタンブールで実施され、最後の総括は日本の大阪本社で行われました。研修は、1回3日間×3回で全9回。「リーダーとマネージャーの違い」「リーダーに求められる資質」といった基本概念から、チームビルディングやコーチングといった実践的な手法、上司、部下、同僚などから評価される「360度評価」などさまざまなアプローチで展開され、各自が回を重ねるごとに学びを深めていきました。

最終回の総括では、各自が1年間の学びから得たことや、自分にどんな変化があったかを、原田CEOをはじめマネジメント層にプレゼンし発表しました。日本本社に初めて訪れたメンバーもあり、最新のオフィスや工場のスケールの大きさに目を丸くして感動していました。



それぞれ忙しい業務をこなしながら、真剣に取り組んだ1年間で。一緒に学び、研修後にはスポーツ観戦を楽しんだり、ビール片手に語り合ったりと、ハードながらも充実した時間を過ごしました。MAD研修を通して、各メンバーに大きな変化(Making A Difference)が訪れたことはもちろん、これまで関わりのなかったメンバーがつながり、トリシマのグローバルチーム力が強くなったことも大きな収穫といえるでしょう。

2024年度 内定式

10月1日に内定式が開かれ、内定者は原田CEOからの激励や入社後の教育についての説明を受けました。その後、チームビルディングを目的に「ペーパータワー」研修を実施。30枚の紙を使い、制限時間内にいかに高いタワーをつくれるかをチームごとに競いました。簡単な作業ではありますが、試行錯誤するなかで内定者どうしの交流を深めることをねらいとしています。また、先輩社員との座談会を通して働くイメージを膨らませるとともに、入社に向けての決意を新たにしました。





弾丸ツアー in インド

\ 3泊5日 /



3泊5日の弾丸で海外へ飛び、自社製品が現地でどのように使われているかを見学し、現地スタッフと交流することで仕事のやりがいを感じてもらおう研修ツアー。今年は選抜メンバー10名がトリシマのサービス工場TPIPL(Torishima Pumps India Private Limited)があるインドを訪問しました。今年度も昨年と同様に「次世代リーダー研修」として、**事前研修** **現地研修** **社内報告会** の3段構えで、より学びが深まる仕組みになっています。

事前研修

理想とするリーダー(人物)像は？

自分の強み、弱みは？を考え、それをベースに現地研修中にすべきことをアクションリストにまとめました。

現地研修



10月21日 〇 出発

22日 〇 TPIPLにて自己紹介、研修(TPIPLについて知る)

23日 〇 客先訪問
ベンガルール郊外にあるポンプ場(TK Halli Pumping Station)へ。

24日 〇 現地スタッフとのワークショップ

25日 〇 帰国



社内報告会

事前研修で作成したアクションリストの達成状況をふまえ、現地研修の報告と、これから日々の行動をどう変えていくのかを発表しました。

現地研修の感想

メールでしか知らなかった方々と実際に会えたことで、国は違えど同じ仕事に取り組んでいることを実感し、「これからも共に頑張ろう!」とモチベーションが高まりました。また、温かく迎えてくださった現地の皆さま、研修ツアー中助けてくださった同行メンバーの皆さま、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。改めてチームワークの大切さを実感しました。

日本の事務所を飛び出てインドで建設中の浄水施設へ。一番に目に飛び込んできたのは紫色の「TORISHIMA」社名プレート。皆さんが手配した部品はインドでも活躍していますよ!とすぐに伝えたくまりました。

率直な感想としては最高でした。ツアーが決まった時は楽しみよりも英語が話せないこと、海外にあまり行ったことがないことへの不安の方が大きかったのですが、実際に行ってみると刺激を受けることの方が多く、ポンプが据えているところを見られたのが新鮮でした。

初めての海外ということで今回の弾丸ツアーへの参加は不安もありましたが、メンバーにも恵まれ、TPIPLの方々にもよくしていただき、楽しむことができました。海外の文化に触れることはとても新鮮で、食事や街並みなどに驚きがたくさんあり、とても良い経験をすることができました。

インドまではほぼ一日がかり、ホテルからポンプ場まではバスで片道4時間もかかりました。そんな所でトリシマのポンプが活躍している姿を目の当たりにして、トリシマが社会に貢献していることを実感できました。

ほぼ舗装されていない凸凹な道路。車とバイクが非常に多く、常にクラクションを鳴らしながら走っている状況。街中に野良犬、野良牛が当たり前のようにいる。インフラ設備がまったく整っていないと感じる一方で、インドが今後成長し、インフラ整備が増えたとすれば、トリシマがもっと活躍できるのではと感じました。

言語も通じない多文化のなかでのコミュニケーションやメンバー同士の協力の大切さを学びました。さまざまな部署のメンバーの異なる視点や考え方に触れることで、自分の視点や価値観も広がりました。新しい知識や経験を今後の仕事に活かしたいです。



株式会社 西島製作所 本社/工場：大阪府高槻市宮田町1-1-8
TEL：072-695-0551 [大代表] www.torishima.co.jp

トリシマは大阪・関西万博の会場整備参加に
プロズパートナーとして協賛しています



OSAKA, KANSAI, JAPAN
EXPO2025



©Expo 2025